

岩 手 県 金 融 経 済 概 況

1 . 概 況

県内の景気は、厳しい状況が続いているが、製造業を中心に持ち直している。

最終需要の動向をみると、公共投資が前年を下回っているほか、住宅投資が低調に推移している。また、個人消費は一部に政策効果がみられるものの、全体では弱い状況が続いている。一方、設備投資は、加工業種で持ち直しの動きがみられている。

この間、生産は横ばいで推移している。こうした中、雇用情勢は厳しい状況が続いているが、改善に向けた動きがみられ始めている。

2 . 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、一部に政策効果がみられるものの、全体では弱い状況が続いている。

(大型小売店売上高)

百貨店の売上高をみると、3月は気温が低めに推移したため春物衣料の動きは鈍かったが、食料品の催事が好評なうえ、身回品・雑貨も値ごろ感のある商品を中心にやや持ち直してきたことから、前年比マイナス幅は縮小している。一方、スーパーでは、気温が低く推移したため冬物処分セールは好調だったものの、春物商材の動きは鈍く、前年を下回って推移している。

(家電量販店売上高)

家電販売は、エコポイント効果により薄型テレビや冷蔵庫が好調に推移していることから、全体でも前年を上回って推移している。

(新車登録台数)

3月の新車登録台数は、乗用車が引続き好調なうえ、貨物車も前年を上回ったことから、全体では前年を2割方上回った。

(2) 公共投資

3月の公共工事請負金額は、県の発注が大きく落ち込んだことから、4カ月連続して前年を下回った。なお、21年度累計では、市町村と国からの発注が前年度を上回ったことから、+4.6%と2年ぶりに増加した。

(3) 住宅投資

2月の新設住宅着工戸数は、持ち家が2カ月連続して前年を上回ったものの、貸家、分譲マンションが低調に推移しており、13カ月連続の前年割れ。

(4) 設備投資

2010年度の設備投資計画(3月短観調査結果*)は、受注の持ち直しに伴う収益環境の改善を踏まえ、加工業種に設備の維持・更新投資の再開や新製品の工場新設、設備購入を企図する動きがみられ、前年を大幅に上回る計画となっている。

*10年度計画・前年度比：製造業 45.9%、非製造業 16.6%、全産業 31.6%

3. 生産動向

生産は、このところ横ばい圏内の動きとなっている。

(電子部品・デバイス)

電子部品・デバイスは、東アジア諸国からの受注増加を主因に持ち直してきたが、足元は横ばいで推移している。

(輸送機械)

完成車、自動車部品とも、政策対応を受けた国内外の需要の回復から、減産を緩和している。

(一般機械)

半導体製造装置は、東アジア諸国からの受注回復を背景に、急速に持ち直している。建設機械部品も、中国からの受注回復などから持ち直している。工作機械は、内外からの引き合いが多少見られ始めており、減産をやや緩和している。

(その他)

窯業・土石、木材・木製品は、需要の低迷から減産を継続している。鉄鋼は、横ばい圏内で推移している。食料品は、一部に増産の動きもみられるが、全体としてはほぼ横這いで推移している。

4. 雇用・所得の動向

2月の有効求人倍率（季節調整値）は、0.39倍（前月：0.35倍）と2カ月連続して上昇、新規求人倍率（同上）は、0.76倍（前月：0.75倍）と3カ月連続して上昇した。

この間、雇用者所得は、常用雇用者数が前年を下回っていることから、前年割れが続いているが、一人当たり名目賃金は、所定外労働時間の増加を映じ、2カ月連続して前年を上回った。

5. 企業倒産

3月の企業倒産（負債総額10百万円以上）は、件数が11件（前月4件、前年同月6件）、負債総額が22億88百万円（前月1億64百万円、前年同月12億10百万円）と、昨年7月（件数17件、負債総額51億10百万円）以来の高水準となった。

6. 金融面の動向

預金動向は、個人預金が堅調に推移しているうえ、法人預金も高留まっているため、前年を上回って推移している。

貸出動向は、地方公共団体向けが増加しているものの、住宅ローンが頭打ちとなっているうえ、法人向けも前年割れとなっていることから、前年並みの動きとなっている。この間、貸出金利は、低下している。

以 上

本件に関する問い合わせ先 日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） http://www3.boj.or.jp/morioka/
